

第三百三十五話 「大東亜戦争」名称の復権を！

「大東亜戦争」の呼称を使うことには矢張り抵抗感があるのだろうか？某部隊のtwitterで「大東亜戦争」なる語彙を使用したことで、削除を強いられる事態が惹起した。これも政府の腰が定まらぬ所為である。

1 現在の政府の立場は、平成17、18年の質問主意書に対する答弁書で「太平洋戦争、大東亜戦争共に戦後法令上の定義・根拠なく、如何なる用語を用いるかは文脈等によるものであり、一概に答えられない。」とされている。

2 戦争呼称の変遷

第一話で取り上げた通り、「大東亜戦争」なる呼称は大本営政府連絡会議（閣議）決定（1941/12/10）であるが、GHQの神道指令の中でその使用を禁止（1945/12/15）された。GHQ提供の「太平洋戦争史」により、広く流布した。その後日本独立に伴い戦争名称の廃止・存続もなされず「太平洋戦争」なる名称は失効したと云える。



3 「大東亜戦争」の呼称の正当性の根拠

(1) 法的正当性

第一話で述べた通り、日本政府が正式に閣議決定した名称である。米軍占領下ではその使用を禁じられたが、占領終了でその呪縛は雲散霧消した筈だ。

(2) 他の名称批判

「太平洋戦争」は米国にとって太平洋戦域での戦いと云う意味であり、支那事変、東南アジアやインド洋地域での戦いを含まないという致命的欠陥がある。

「アジア・太平洋戦争」では、余りにも茫漠とし過ぎて捉えどころがない。日本が戦った地域がアジアであったとするならば、無縁の地域が含まれている。となるとしっくりとしない。「昭和戦争」や「15年戦争」なる名称もあるが、その認知度は低い。

(3) 大東亜の地域的妥当性

国際的な定説がある訳ではないが、日本自らが設定した大東亜地域（東亜のみではなくより広義の東アジアを指すとされる。）での戦いであったので、「大東亜戦争」と呼称したとの妥当性には異論なからう。

(4) 日本が自存自衛のみならず、大東亜新秩序建設をも目的としており、当時の国民はそう認識しており、我が父祖はそれを信じて戦ったのだ。そういう意味合いでは日本人の皮膚感覚に合致する。日本の主体性を体現する意味においても有意義だ。

(5) イデオロギー性や本戦争の是非・善悪についての議論はあるが、それと戦争名称は切り離して考えても良いのではないか？

(6) 戦争を美化し、日本の侵略性を捨象するとの批判はあるが、それと名称は別にして考えれば良いのではないか？

(7) 大東亜戦争を全面的に肯定するものではなく、日本も沢山の失敗や誤りを犯しているのは事実だが、だとしても当該名称を嫌う必要はないはず。

(8) 夫々の国には、その国独自の戦争呼称があっても良いのではないか。

4 歴史認識問題を克服するために

戦争名称が分裂している所以のものは、歴史認識の分裂故であるのは事実だ。第一に政府がこの歴史認識問題から逃げているのが問題なのだ。名称すら決めきれないのは怠慢の誹りを受けても仕方なからう。議論を避け、近隣諸国との摩擦を回避せんとする意図が明白だ。近年、「太平洋戦争」は廃れ、「大東亜戦争」が復権しつつあるやに見えるが、それを確実にするためには、政府がまず先の戦争の呼称を正式決定することが肝要だ。歴代政府は逃げてきたと感じるのは小生のみではあるまい。

(第三百三十五話 了)